

令和7年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、「児童生徒が主体の楽しくわかる学び」の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践に取組み、ICT機器の効果的・効率的な活用や多様な指導方法・指導体制について研究を進めています。また、個に応じたきめ細やかな指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことができる環境づくりに努めています。さらには、お互いに認め合う学級・学校づくりに努め、ポジティブ教育やインクルーシブ教育にも力を入れています。これらの学校教育で培われた力が児童生徒に定着していることを確認する目的で、本調査を行っております。本調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用し、今後の授業改善に役立てていきたいと思ひます。

本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひ話題にしてください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数・理科」「中学校 国語・数学・理科」において実施されました。勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。
「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国 語	やや低い	同程度
	算 数	やや低い	同程度
	理 科	やや高い	高い
中学校	国 語	同程度	同程度
	数 学	やや低い	やや高い
	理 科	(同程度)	(高い)

※中学校理科は、IRT スコアでの採点のため、参考値となります。

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成 果	課 題
国 語	○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えること	▲日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討すること ▲図表などを用いて、自分の考えが伝わるように工夫すること ▲必要な情報を見つけること

算 数	○目的に応じて適切なグラフを選択し、読み取った内容を言葉や式を用いて表すこと ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと	▲棒グラフから、項目間の関係を読み取ること ▲基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述すること ▲数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること ▲○%増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の何倍になっているか表すこと
理 科	○電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し表現すること ○顕微鏡を操作し、適切な像にすること ○水の結晶について、温度によって水の状態が変化することを理解すること	▲赤玉の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現すること ▲身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身に付いていること ▲発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること

【国語】

○インタビューをする場面において、自分が聞こうとする意図に応じて、インタビューする内容を考えたり、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることを正確に捉えることができていました。日頃から、国語だけでなく様々な場面において、全ての学年でインタビュー活動など相手意識をもって話す活動を取り入れている成果です。自分の思いや考えを表現する力は、今後、ますますあらゆる場面で必要になってくる力だと言えます。

○資料を読んで、疑問や興味をもったことについて調べ、まとめる場面において、メモを作成して、内容を捉えることがよくできていました。様々な資料に、疑問や興味をもち、それについて調べたりまとめたりする学習が増えています。一人一台端末環境になり、これまで以上に情報も手に入れやすくなりました。だからこそ、必要な内容をきちんと入手し、自分の考えをもち、まとめることができる力が大切になってきます。国語だけでなく、様々な学習場面において、さらに身に付けたい力です。

▲自分の考えが伝わるように図や表を用いて書き表し方を工夫したり、目的や意図に応じて書いたりすることが全国平均や県平均と比べて、やや低い結果となりました。無回答も多く見られました。書くことへの抵抗を無くし、書く内容を明確にし、自分の考えや意図が伝わるように文章を書く力を身に付けていけるといいです。

▲目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることが、全国平均や県平均と比べて、低い結果となりました。文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結びつくのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが大切です。必要な情報は、目的に応じて変わるので、読む目的を明確にする力を身に付けていけるといいです。

【算数】

○新品のハンドソープが空になるまで何プッシュすることができるのか調べるために、伴ってかわる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはよくできていました。問題場面をしっかりと把握し、一方の量が変わると、もう一方の量がどのように変化するのかを捉えることができていました。

▲「１０％増量」の意味について、百分率で示された１０％を０．１と捉えることはできているのですが、「増量後の量」が「増量前の量」の１１０％になること、もとの量の１．１倍になっていると捉えることに課題が見られました。授業では、関係図やテープ図、線分図などを用いて、答えを導きだしていきます。それらの図の有用性を子どもたちが感じ、図や式、言葉を用いて説明できる力を付けていけるといいです。

▲数直線上に示された数を分数で表すことに課題が見られました。数直線上で１の目盛りに着目し、分数が単位分数の幾つ分として捉えることができませんでした。分数については、２学年から毎年学習します。概念や意味を十分に納得、理解できるように、繰り返し学習していくことが必要です。

▲五角形の面積を求めるために、五角形を二つの基本図形に分割し、面積の求め方を式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。図形の面積を求める場合は、どの長さを用いたのかを明らかにし、式に表し、なぜその式になるのか説明できることが大切です。もちろん、基本図形の面積を求める公式を正しく理解していることも求められます。

【理科】

○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身につけていました。授業では、実験や観察を積極的に行い、顕微鏡を用いた活動も多く取り入れています。今後も、実験や観察に積極的に取り組んでいきます。

○海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の面積が減少した理由を予想し表現することがよくできていました。学習した内容や生活体験などを基に、根拠のある予想や仮説を立て、表現することができています。

▲アルミニウム、鉄、銅が、電気を通すか、磁石に引き付けられるかについて、それぞれの性質に当てはめることに課題が見られました。磁石に引き付けられるかどうかは判断できるのですが、電気を通すかどうかを判断することが難しかったようです。実験において、児童が調べてみたいと思う金属を扱うなど、児童の問いを大事にしたいです。

＜中学校＞

	成 果	課 題
国 語	○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること ○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること ○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること	▲書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること ▲読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること ▲無回答が多いこと

数 学	○多角形の外角の意味を理解していること ○数量を文字を用いた式で表すこと ○証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすこと	▲一次関数について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること ▲式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
理 科	○一酸化炭素は、空気より軽いという性質を基に適切な避難訓練を選択すること ○塩素の元素記号を記述すること ○設定した「仮説」が正しい場合の予想を選択すること	▲スケッチから分かる植物の特徴を基に植物の葉、茎、根のつくりに関する知識を活用して、茎の断面図や根の構造について選択すること ▲小腸の柔毛、肺の細胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして事象を判断すること

【国語】

○おちしに「会場図」を加える目的を選択することがよくできていました。集めた材料を整理して、伝えたいことを明確にすることはとても大切です。国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間や学校行事等でもおちしや案内文を書く場面が見られます。相手意識をもって、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことが大切です。

○物語の中で「兄」と「弟」が、どのような性格の人物として描かれているか、文章全体と部分との関係に注意しながら読むことがよくできていました。質問紙調査「読書は好きですか」という質問で「好き」と答える生徒の割合が多い結果となっています。読書離れと言われていますが、本から学ぶことはたくさんあります。まずは、好きなジャンルの本からはじめ、一冊でも多く読むことが大切です。

▲手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正することに課題が見られました。読み手の立場に立って、表記を確かめ文章を整えることは日常生活でも大切な力です。「書いたら終わり」ではなく、誤字はもちろん、構成や表現の工夫について、見直す習慣を身に付けていけるといいです。

▲無回答の多い結果となりました。質問紙調査でも「書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という項目で、県より低い結果となりました。書くことへの抵抗をなくし、記述式の問題にもきちんと取り組めるといいです。また、「解答時間は十分でしたか」という項目で「時間が足りなかった」という生徒も多く見られました。調査問題は読む量も多いです。「早く正しく読む」という力も必要だと感じます。

【数学】

○△ABCにおいて、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求めることがよくできていました。外角の意味を正しく理解しています。

○果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を a を用いた式で表すことがよくできていました。昨年度の調査で文字を用いた式に課題が見られましたが、今回の調査でよい結果となりました。

▲一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のとき y の増加量を求めることに課題が見られました。 x に2を代入し、 y の値を回答している生徒が多く見られます。問題文の内容を正しく理解できず、誤答につながったように感じます。数学の用語をきちんと理解し、問題を正しく読み取ること

が大切です。

▲ $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを証明することに課題が見られました。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することが難しかったようです。日頃から、数学的な用語を使い、説明する力を身に付けることが大切です。

【理科】

今年度、中学校理科は、CBT 調査（オンライン方式）で実施されました。公開問題 10 問と非公開問題 16 問を組み合わせで出題されました。公開問題は調査日によって出題が異なり、非公開問題は生徒ごとに異なる問題を解きます。個々の問題の内容や結果は示されていません。上記の結果は、市全体の結果ではありませんが、市の傾向として書いてあります。今後の学びの参考にしてください。

【3】児童生徒質問紙について

（1）「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、昨年度と比較して改善が見られるものや県・全国の平均値と比べて上回ったものを中心に、「改善したい点」として、昨年度と比較してよくない結果となったものや県・全国の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。ただし、昨年度とは児童生徒が異なっています。

<小学校>

良好な点	改善したい点
○寝る時間が決まっている児童の割合はやや増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R6 87.9% → R7 88.6%) (市 88.6% 県 85.5% 国 81.9%)	▲「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童の割合が減少している。 (R6 94.9% → R7 92.9%)
○「自分にはよいところがある」と答えている児童の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R6 85.4% → R7 87.9%) (市 87.9% 県 87.7% 国 86.9%)	▲「課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいる」と答えた児童が減少している。 (R6 87.9% → R7 84.4%)
○「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と答えた児童の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R6 91.1% → R7 93.7%) (市 93.7% 県 93.2% 国 92.2%)	▲「学級活動における話し合いを生かして自分が努力すべきことを取り組んでいる」と答えた児童が減少している。 (R6 91.8% → R7 85.1%)
○「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合は、大きく増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R6 82.3% → R7 90.1%) (市 90.1% 県 87.9% 国 86.5%)	▲「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合っている」と答えた児童の割合は、減少している。 (R6 93.6% → R7 88.0%)
○「友達関係に満足している」と答えた児童の割合が大きく増加し、県や全国平均より高い。 (R6 86.7% → R7 94.3%)	▲国語・算数の各教科で、それぞれ「好

(市 94.3% 県 92.6% 国 91.7%) ○「新聞を読んでいますか」と答えた児童の割合が大きく増加し、県や全国平均より高い。 (R6 13.3% → R7 17.7%) (市 17.7% 県 14.0% 国 10.5%)	き」と答えた児童が全て減少した。また、それらの授業が「得意だ」と答えている児童の割合も低い。
---	---

- 「寝る時間が決まっている」と答えた児童の割合が増加したのは、ご家庭において規則正しい生活習慣を身に付けるために、保護者のみなさまにご協力いただいているおかげです。ただ、「起きる時間が決まっている」と答えた児童の割合は、やや減少しました。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子様と生活リズムについて考える機会を定期的にもっていただけるとありがたいです。
- 「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合が大きく増加しました。また、「友達関係に満足している」と答えた児童の割合も大きく増加しました。楽しい学校生活と友達関係は、大きく関係しています。同時に、「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」と答えた児童も増加しました。相談できる教員、相談できる友達がいる場所としての学校運営、学級経営に今後も努めていきます。ご家庭でも、お子様との会話や行動の様子から、気になることがありましたらすぐに学校にご連絡ください。保護者と学校が共に考えることで、どの子も「学校に行くのは楽しい」と思えるように努めていきます。
- 「新聞を読んでいる」と答えた児童の割合も増加しました。学校では、新聞を閲覧できるコーナーが設置されたり、タブレットで読んだりできる環境を整えています。新聞を活用した学習にも多くの学校で取り組んでいます。今後も続けていこうと思います。
- ▲5年生までに受けた授業で、「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいた」と感じている児童の割合が減少しました。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」という項目も、昨年度よりやや低い結果となりました。自分の意見を友達の意見と比較し、さらに理解を深めたり広げたりしていくことは大切な力です。自分の意見に根拠をもって、自信をもって積極的に表現できる児童が増えるよう、一人一人の考えを大事にしていきます。
- ▲「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童の割合も昨年度より減少しています。学級で話し合う活動を大切にし、それによってよりよい人間関係、自己形成が行われていくように取り組んでいます。話し合う活動を充実させながら、居心地の良い学校づくりを目指していきます。
- ▲「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」と答えた児童が減少しました。また、「国語の勉強は得意」「算数の勉強は得意」と答えた児童も減少しています。児童が「わかる・楽しい」と思える授業改善に向けて研究を進めていきます。また、児童理解を図り、一人一人に寄り添った授業づくりに努め、学ぶことの楽しさや学ぶ意味を感じられるような授業を目指します。

<中学校>

良好な点	改善したい点
○起きる時間が決まっている生徒の割合は増加している。 (R6 90.5% → R7 94.0%) ○「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合が増加し、県や全国平均と比べて高い。 (R6 85.7% → R7 92.6%) (市 92.6% 県 87.7% 国 86.2%) ○「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合が県や全国平均と比べて高い。 (R6 70.3% → R7 75.3%) (市 75.3% 県 70.8% 国 67.5%) ○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答える生徒の割合は高く、県や全校平均と比べても高い。 (R6 82.2% → R7 87.3%) (市 87.3% 県 83.0% 国 79.2%) ○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答える生徒の割合は県や全国平均と比べ高い。 (市 81.3% 県 76.6% 国 70.6%) ○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりしている」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。 (R6 94.0% → R7 95.3%) (市 95.3% 県 93.1% 国 91.5%)	▲寝る時間が決まっている生徒の割合は減少している。 (R6 86.9% → R7 80.0%) ▲「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合がやや減少している。 (R6 89.9% → R7 88.0%) ▲「友達関係に満足している」と答えた生徒の割合がやや減少している。 (R6 91.1% → R7 89.4%) ▲学校の時間以外に、全く勉強をしない生徒が増加した。 (R6 0.6% → R7 7.3%) (市 7.3% 県 6.2% 国 7.7%) ▲「国語の勉強は好き」「数学の勉強は好き」「理科の勉強は好き」と答えた生徒の割合が減少した。 国 (R6 79.1% → R7 72.7%) 数 (R6 63.1% → R7 56.7%) 理 (R6 68.5% → R7 64.6%)

- ▲「起きる時間が決まっている」と答えた生徒の割合が増加しました。しかし、「寝る時間が決まっている」と答えた生徒の割合は減少しました。中学生になると、寝る時間が遅くなる生徒も多く見られます。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子さんと生活リズムについて考える機会を定期的に持っていただけるとありがたいです。
- 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が増加しました。各校で取り組んでいるポジティブ教育で自己肯定感が高まってきていると感じます。また、キャリア教育の充実により、自己の将来について考える時間が増えた結果と思われます。今後も、ポジティブ教育やキャリア教育に力を注いでいきます。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答える生徒の割合が増加しました。同時に「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答えた生徒の割合も増加しました。話し合いを通して、自分の考えを深め、主体的な学びにつながっていることがわかる結果となり

ました。主体的な学びは、生徒にとって印象深く、定着しやすいものであると考えられます。また、次につなげようとする意欲になります。現在、各学校で研究を進めている、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実をさらに進め、自分にあった学び方の選択ができるよう支援していきます。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりしている」と答えた生徒が多いことは、自分の考えを積極的に表現できる環境であるということです。多くの生徒が積極的に表現できる環境とは、周りが意見に耳を傾けてくれると感ずることができ、安心して過ごすことができる環境であると言えます。今後も一人一人を大切に、互いを尊重し合える仲間づくり、絆づくりを進めていきます。

▲「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合がやや減少しました。同時に、「友達関係に満足している」と答えた生徒の割合もやや減少しました。楽しい学校生活と友達関係は、大きく関係しています。悩みを分かってくれる友達がいる、相談できる先生がいる安心感が充実した楽しい学校生活につながります。生徒の気持ちに寄り添い、居心地の良い学校づくりを目指します。

▲学校の時間以外に、全く勉強をしない生徒が昨年度より増加しました。全国と比べると少ないですが、県と比べて多い割合となりました。主体的に学ぶ気持ちや態度は、学習習慣と大きく関係すると考えられます。家庭での学習習慣を身に付けることは大切なことです。保護者のみなさまの協力なしでは、家庭学習を身に付けることは難しいです。ぜひ、家庭学習の大切さについてお子さんと話す機会を持っていただけるとありがたいです。

▲国語・数学・理科の授業が好きだと答えた生徒の割合が減少しました。中学生が学ぶ内容は大変多いです。学校生活の大半を占める授業が楽しいと思える学校を目指します。まずは、生徒が「わかる」と思う授業づくりに努めます。分かることは、楽しさにつながります。そして、学ぶことが楽しいと思える生徒の育成を目指し、授業改善に向けて研究を進めていきます。

（２）正答率との間に関連が見られた質問項目について

ここ数年の分析と今年度特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを８例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にしてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
就寝時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 4回連続同じ傾向	小学国語	10ポイント差
	小学算数	20 "
	中学国語	5 "
	中学数学	16 "
「前学年までに受けた授業において、うまく伝わるように、理由を示したり、資料や文章、話の組み立てを工夫したりしている」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 9回連続同じ傾向	小学国語	20ポイント差
	小学算数	23 "
	中学国語	24 "
	中学数学	38 "
「前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている生徒は、正答率が高い。	小学国語	14ポイント差
	小学算数	38 "

6回連続同じ傾向	中学国語	1 8	〃
	中学数学	2 6	〃
「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	1 4	ポイント差
5回連続同じ傾向	小学算数	1 4	〃
	中学国語	1 4	〃
	中学数学	2 0	〃
「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。	小学国語	1 4	ポイント差
5回連続同じ傾向	小学算数	3 4	〃
	中学国語	2 6	〃
	中学数学	3 6	〃
「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。	小学国語	6	ポイント差
4回連続同じ傾向	小学算数	1 3	〃
	中学国語	3 4	〃
	中学数学	4 8	〃
「総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	2	ポイント差
5回連続同じ傾向	小学算数	2 7	〃
	中学国語	2 1	〃
	中学数学	2 4	〃
「〇〇の勉強は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	2 5	ポイント差
国語と算数・数学は5回連続同じ傾向	小学算数	2 9	〃
	中学国語	1 8	〃
	中学数学	3 6	〃

○基本的な生活習慣に関する結果を見ると、起床時間が定まっている・就寝時間が定まっている児童生徒は正答率が高いという結果が見られました。規則正しい生活を送ることは、学習を計画的に行うことにつながり、学習を効率よく進めることにもつながることがわかります。年齢が上がると生活習慣が乱れやすくなりがちですが、起床時間が決まっている生徒が9割を超え、就寝時間が決まっている生徒も8割を超えています。とても良いことです。近年、SNSの普及により就寝時間が遅くなる児童生徒が多くなっています。自分で自分を管理しきれない小学生段階では、保護者の声かけ・手助けが重要になってきます。学年が上がるにつれて、自分で判断し、行動に移すことができる力を付けていけるよう、学校と家庭が共通理解のもとお子さんを支援していけるといいです。

また、朝ごはんを毎日食べることについては、小学生、中学生共に「全く食べない」と答えた児童生徒が数名おり、正答率にも大きな差がありました。やはり朝食を食べると食べないとでは、授業に対する集中力ややる気が変わってくるものと思われます。睡眠や食事のとり方などを含め、毎日のスケジュール管理など工夫しながら進めていけるよう支援していきます。

○前学年までに受けた授業に関する質問で、①「うまく伝わるように理由を示したり、話の組み立てを工夫したりしている」②「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目は、ここ数年連続で、否定的な回答をしている児童生徒に比べ、肯定的な回答をしている児童生徒の正答率が高いう結果でした。学習に対し、主体的に取り組んでいることを自覚している児童生徒は、学力が定着していることの証拠です。得意な学習、好きな教科だけでなく、すべての取組みに対して、自分

にあったやり方で自分のものにしていく根気が身に付くとすばらしいです。

○自分と違う意見について考えたり、学級の友達と話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えたりするなど、意見の交流を大切にして、自分の考えをよりよいものにしていこうとすることは、深い学びを実現していくためには欠かせない要素であると考えられます。学校でも、学級全体での話し合いはもちろん、ペア活動やグループ活動など様々な場面において、児童生徒が話し合う場面を大切にしています。仲間との協働的な学びは、多様な考え方や意見を生み出すためには重要です。今後も仲間と学び合う場面を多く設定していきます。

○総合的な学習の時間において、課題解決に向けて自分で考えたことや調べたことを、上手く伝えるようにまとめたり、発表したりする活動を主体的に行うことができている児童生徒は、学力が定着していることがわかります。勝山市では、地域と連携したふるさと教育に取り組む、各校の特色を生かした活動を行っています。地域との交流や体験、タブレット端末を上手に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの充実により、自分たちで学びを展開していくことができるように支援していきます。

○好きな教科の正答率が高いという傾向は、毎年変わらず見取ることができます。好きな教科は意欲的に学習できるため、おのずと正答率はあがります。好きな教科をつくるためには、興味や疑問をもって学習に臨むことが鍵になってくると考えます。難しい＝苦手ではなく、難しい問題を解くことができた達成感を味わうことも重要です。児童生徒が難しい課題に立ち向かう力、解決する力をつけるための支援を引き続き行っていきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

＜ア＞安心して、楽しく学習や活動に取り組める環境づくり

最も大切にしたいこととして、児童生徒が安心して学習や活動に取り組むことができる環境を提供できるよう、全教職員が共通理解のもと教育活動を進めていきます。そのためにも、一人一人を大切にしたい学級経営や授業づくりに努めます。また、いじめや不登校等を生まない「魅力ある学校づくり」にも力を入れていきます。児童生徒がお互いのよいところを認め合い、思いやりの心が育つよう支援していきます。さらに、個性を大切に、多様性を認め合う心を養いながら、人と人とのつながりを意識し支え合う中で、共生社会の実現を目指していきます。不安や問題を抱えている児童生徒に対しては、家庭および関係機関との連携のもと、気持ちに寄り添った支援を迅速に行っていきます。

＜イ＞児童生徒が主体の楽しくわかる学びの推進

学力の向上には、児童生徒が主体的に学ぶことが不可欠です。主体的な学びを進めるためには、自ら課題を設定し、ICT機器を活用して情報を集め、それらを整理しながら、友達と意見交流や考えを共有する中で、自分なりの答えをまとめ、表現するといった学習展開が必要です。全ての教科で、既習事項を生かしたり、疑問に思ったことを追究したりしながら、さらに次の学びへつなげていけるよう支援します。タブレット端末を用いることは、学習の中ではごく自然に行われるという感覚になってきています。児童生徒が使っている姿を見ても想像以上にスムーズです。学習ツールの1つとして自然に選択できるまでになってきたことは大変よいことです。今後は、ICT機器をよりよく使いこなせる情報化社会を生きる人として、判断力を磨き、責任をもって利用する児童生徒が育つための支援（デジタル・シティズンシップ教育）を充実させていきます。児童生徒一人

一人の学びの進捗状況や良い点を教員が積極的に評価し、学習意欲の向上に努めるとともに、指導の過程や成果の評価を授業改善に生かしていきます。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

＜ア＞規則正しい生活習慣の定着

児童生徒の学力向上のベースは規則正しい生活習慣であると考えます。健全な学校生活を送ることができてこそ、学力の定着が図れるのです。小学校低学年では、見通しを持てるように手厚く支援していただき、小学校高学年では、少しずつ自分で判断して実践することを増やしていきながら、中学生では、自分のことは自分で管理し、責任ある行動をすることができるようになることが理想です。生活習慣の大切さを児童生徒自身が理解できれば、週末や長期休業で生活リズムが崩れることも少なくなると考えられます。“規則正しくしなければならない”ではなく“規則正しい生活がしたい”と思えるような感覚を身に付けることができるよう、今後とも見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

＜イ＞児童生徒の学習状況の把握

学校は、学期に1度お子様の学習の状況を保護者の方にお伝えしています。何が得意で、何に力を入れていくとよいのかを、学校生活の中での成長をわかりやすく伝えるように努めています。ご家庭においても学習の内容を話題に挙げ、お子様が学習の様子を自分で語る機会をぜひ大切にしてください。そして、今何をがんばっているのかを把握していただけるとありがたいです。保護者懇談でお話していることをより深くご理解いただけることと思います。家庭と学校で一緒にお子様のがんばりを認めていけると、より自信をもって学び続けることができると考えます。

＜ウ＞学校と家庭の連携、関係機関との連携

学校では、安心して過ごすことができる環境づくりに努めていますが、問題が全く起こらないようにすることは困難です。いじめ等の問題行動や不登校等の未然防止には、学校と家庭が連携し、できるだけ早く発見し、対応していくことが欠かせません。何か気がかりなことがありましたら、些細なことでも学校に連絡相談いただくと助かります。大きな問題になる前に、児童生徒に関わるすべての方の協力で防ぎたいと考えます。また、必要に応じて専門的な機関との連携も、保護者の方の理解のもと進めていきたいと考えております。

以上の点につきまして、ご協力をお願いいたします。

【5】結び・おわりに

今年度の結果は、全国平均と比較すると小中の国語・算数・数学で「同程度」、理科で「高い」と捉えることができるものの、県平均と比較すると小学校の国語・算数、中学校の数学で「やや低い」中学校の国語で「同程度」、理科は「やや高い」「同程度」という結果でした。結果の良い悪いだけで、児童生徒のがんばりを評価することはできませんが、勝山市全体として、今回の結果とこれまでの取組みを振り返ることで、今後の児童生徒の主体的に学びに向かう姿勢につなげていこうと考えます。学びには、新しい発見や驚き、疑問を持つことが大切です。新しい知識や考えが備わっていく過程を自ら楽しみながら学ぶことができる児童生徒が育つようしっかりと支援していきます。

この全国学力・学習状況調査では、児童生徒の学びの成果の一部を調査したに過ぎませんが、大き

く変化し続ける社会を生き抜くための力を育成するためには、小中学生の間に主体的に学びに向かい、困難な課題にも立ち向かって解決する力を付けていくことが重要になります。そうした観点から、この調査の結果を各校でもより具体的に分析しながら、より一層、学力向上に努めてまいります。

保護者の皆様をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。